

平成 30 年第 4 回庄原市議会定例会

一般質問通告者
及 び
質 問 事 項

9月19日～9月21日

質問順位

- | | | | |
|-----|------|-----|-------|
| 1. | 近藤久子 | 2. | 横路政之 |
| 3. | 山田聖三 | 4. | 門脇俊照 |
| 5. | 岩山泰憲 | 6. | 坂本義明 |
| 7. | 桂藤和夫 | 8. | 宇江田豊彦 |
| 9. | 林高正 | 10. | 谷口隆明 |
| 11. | 赤木忠徳 | 12. | 吉方明美 |
| 13. | 福山権二 | 14. | 五島誠 |

庄原市議会

平成30年9月定例会 一般質問

順位	質問議員	質問項目	ページ
1	近藤久子	命の守れる災害対策について	1
		学校教育の充実について	3
2	横路政之	災害発生時における避難所運営について	4
		子育て応援アプリについて	6
		乳幼児健診における小児がんの早期発見について	6
3	山田聖三	人口減少対策における農業後継者の育成・確保について	7
		図書館の充実について	8
4	門脇俊照	避難所について	9
		生活困難者の支援について	9
		自殺対策について	9
5	岩山泰憲	小中学校の統廃合について	10
		災害復旧工事の推進について	11
		地元業者の参加・発注状況について	11
		市内のゴミの収集について	11
6	坂本義明	七塚原記念館の修復保存について	12
		放課後児童クラブと放課後子供教室の現状と課題について	12
7	桂藤和夫	西日本豪雨災害への対応について	13
		ジオパーク構想について	13
8	宇江田豊彦	庄原市まちづくり基本条例を基底とした行政運営は実践されているのか	15
9	林高正	境界明確化事業及び地籍調査事業について	16
		通学路にある危険な空き家について	16
		改正道路交通法により消防ポンプ自動車は運転できない消防団員について	16
10	谷口隆明	7月豪雨災害への対応について	17
		中小企業・小規模企業振興条例について	18
		学校再配置の議論について	18

順位	質問議員	質問項目	ページ
11	赤木忠徳	西城地域の道路路線の方向性について	19
		西城市街地環境計画について	20
12	吉方明美	庄原市木質バイオマス活用プロジェクトについて	21
		保育所における紙おむつの持ち帰りについて	22
13	福山権二	庄原さとやまペレット（株）の経営について	23
14	五島誠	仮想通貨を活用した地方創生について	24

一般質問日程

9月19日（水） 近藤久子 ・横路政之 ・山田聖三 ・門脇俊照 ・岩山泰憲
9月20日（木） 坂本義明 ・桂藤和夫 ・宇江田豊彦 ・林 高正 ・谷口隆明
9月21日（金） 赤木忠徳 ・吉方明美 ・福山権二 ・五島 誠

順位	1	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 命の守れる災害対策について	<p>この度の7月豪雨は、広島県内では戦後最大級の災害であり、県内全域で特に土砂災害が多く、河川の氾濫もあった。</p> <p>庄原市においては、人的被害は無かったが、住家や公共施設、農地など甚大な被害を被った。今回の災害対策について、様々な観点からの検証が必要であると考えているが、本年6月に内閣府がとりまとめた「市町村のための水害対応の手引き」も踏まえて、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 各戸配布されているハザードマップは、その土地の災害リスク情報を知る重要なツールであるが、これを活用して、的確な避難行動に結び付けるための今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 指定避難所及び指定緊急避難場所の選定については、市民の理解により安心の得られる場所への変更も必要ではないか。</p> <p>また、開設情報のより確実な伝達についての方策が必要ではないか。</p> <p>(3) 避難行動要支援者、配慮者等の避難の実効性の確保について伺う。</p>		市長

順位	1	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 命の守れる災害対策について	<p>(4) 国の手引きによると、災害対応の原則は、「準備したものでなければ機能しない、事前の備えが不可欠」、「避難勧告等の発令は「空振り」は許されるが「見逃し」は許されない」、「最悪の事態を想定して、疑わしきは行動せよ」とある。</p> <p>この原則に本市の災害対応を照らした場合、対策本部として課題と考えられることはあるか。</p> <hr/> <p>(5) 昼夜を徹して様々な対応をした職員等の意見は、非常事態における今後の体制づくりに欠かせない。また、被災者の体験談の聞き取りも、今後の重要な資料となると考えるが、そうした情報収集を行うのか、また、行うとすれば、どのような形でまとめられるのか伺う。</p>		市長

順位	1	質問者	近藤 久子
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 学校教育の充実について	<p>「広島版『学びの変革』アクション・プラン」の全県展開の年度を迎え、庄原市教育委員会の「平成30年度教育行政施策の方針」に示された学校教育の重点施策に基づき、以下の点について、取り組みの内容及び進捗状況を伺う。</p> <p>(1) 「豊かな人間性の育成」における「考え議論する道徳」の着実な実践について伺う。</p> <p>(2) 「教職員の資質向上」における「授業力の向上」及び「教職員のサービス管理の徹底」について伺う。</p> <p>(3) 「学校教育環境の充実」における「学校の適正規模・配置の推進」について、特に地域及び保護者への説明会における現段階での課題について伺う。</p>		教育長

順位	2	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 災害発生時における避難所運営について	<p>今夏の豪雨は、西日本各地に大規模な被害をもたらした。災害発生時には、災害対策基本法に基づき、予防、応急、復旧・復興というあらゆる局面に応じ、国と地方公共団体の権限と責任が明確化されている。</p> <p>大きな災害が発生した場合、自治体職員は国や県との連携や大口支援の受け入れなど、特に初動期において多忙を極める。この間に職員が様々な事情から避難所運営にあたってしまうと、被災者救助をはじめ災害復旧に重大な影響を及ぼしかねない。</p> <p>そこで、本市の避難所運営について伺う。</p> <p>(1) 内閣府が公表している「避難所の良好な生活環境の確保に向けた取組指針」には、「市町村の避難所関係職員以外の者でも避難所を立ち上げることができるよう分かりやすい手引き（マニュアル）の整備が必要である」となっている。「避難所運営マニュアル」を本市では作成していないと伺っているが、近年の多発する災害状況も鑑みて、早急に作成するべきではないか。</p>			市長

順位	2	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 災害発生時における避難所運営について	<p>(2) 内閣府公表の「避難所運営ガイドライン」には、「避難所生活は住民が主体となつて行うべきもの」となっているが、本市においては、災害発生時の避難所運営の流れはどのようなになっているのか伺う。</p> <p>(3) 内閣府の「避難所の良好な生活環境の確保に向けた取組指針」では、「地域住民も参加する訓練を実施すること」となっているが、避難所運営の訓練の実施状況を伺う。</p> <p>(4) 熊本地震では、最大1日1,400名を超える他の自治体職員の派遣を受け入れた。内閣府の避難所運営等の基本方針によると、「被災者のニーズの把握や他の地方公共団体等からの応援及びボランティア等の応援団体の派遣調整等をする「避難所支援班」を組織し」とあるが、本市では、避難所支援班はどのように組織され、災害時にはどのような動きとなるのか。</p>			市長

順位	2	質問者	横路 政之	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
2. 子育て応援アプリについて	<p>子育て家庭の家族形態や就労形態が多様化する中で、さまざまな形の子育て支援が求められており、自治体における支援事業も利用者のニーズに幅広く対応する必要性が増している。妊産期から就学前の子育て支援事業の提供は、急速に進む情報社会の中にあって最も効果的な手法を検討すべきと考えている。</p> <p>三次市においては、広島版ネウボラ構築のモデル事業の一環として、電子手帳のアプリ活用をスタートさせている。スマホアプリの活用による効果的な子育て支援に関する情報配信を行うことについて、考えを伺う。</p>		市長	
3. 乳幼児健診における小児がんの早期発見について	<p>我が国の小児の死亡原因の第1位は、がんとなっている。小児がんの患者と家族は、発育や教育への対応など、成人のがん患者とは異なる課題を抱える。小児がんの発症数は年間2,000～2,500人と少ないが、扱う医療施設は全国に200程度しかなく、多くの医療機関では医療経験が乏しく、小児がん患者は適切な医療を受けられないことが懸念されている。国では、昨年より全国15か所に小児がん拠点病院を指定し、質の高い医療の提供と相談体制の充実を図っているが、本市においては、小児がんの早期発見のために、どのような取り組みを行っているか伺う。</p>		市長	

順位	3	質問者	山田 聖三
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 人口減少対策 における農業 後継者の育成・ 確保について	<p>人口減少社会における問題は、次の時代を担う後継者をどう育てていくかであると考え る。農業分野において、どのような施策で後 継者の育成・確保をしようとしているのか、 市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 農業後継者の育成・確保への取り組み の現状について伺う。</p> <p>(2) 単独市費事業である新規就農者育成事 業奨励金について、これまでの取り組みの 成果及び課題を伺う。</p> <p>(3) 農業は、天候等自然条件に大きく左右 されるため、収入が安定しない職業であり、 特に青年層や子育て世代が就農しようとし たとき、農業収入を得るまでの現金収入(生 活費)が必要となる。最低生活費を保障し、 新規就農を促進するという観点からも、新 規就農者育成事業奨励金の充実が必要であ ると考えるが、今後の取り組みについて伺 う。</p>		市長

順位	3	質問者	山田 聖三
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. 図書館の充実 について	<p>本市教育の基本理念は、「ふるさとの学びを原動力として高い志を持ち続け活躍できる人材の育成」とある。</p> <p>次の時代を担う人材の育成に向け、その理念を実現するためには、図書館の充実が重要ではないかと考えるが、次のとおり教育長の考えを伺う。</p> <p>(1) 市立図書館の管理運営の現状と、各館の活動内容及び利用状況について伺う。</p> <p>(2) 市立図書館の管理運営及び活動における課題について伺う。</p> <p>(3) 田園文化センター内に図書館を置くということではなく、庄原市立庄原図書館として独立させ、図書館機能を充実するとともに、他の地域においては一律に分館という形ではなく、地域の実情に合わせた図書施設としての管理運営を行うほうが、充実につながるのではないかと考える。</p> <p>市立図書館の充実に向けた今後の取り組みについて伺う。</p>		教育長

順位	4	質問者	門脇 俊照	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
1. 避難所について	<p>平成30年7月豪雨で多数の災害が起こり、改めて防災強化を強く感じている。本市では、平成22年に起きたゲリラ豪雨の教訓が生かされ、市や消防、自治振興区など関係者の速やかな対応に感謝している。7月以降、豪雨や台風で3回、避難所が開設され多くの市民が避難されたが、避難所の運営を手伝う中で疑問を感じたことについて、次のとおり伺う。</p> <p>(1) 避難所の管理・運営は、誰が主で行うのか。また、責任は誰が負うのか伺う。</p> <p>(2) 介護を必要とする人について、避難所での介護支援や必要な設備、備品などの現状について伺う。</p> <p>(3) 介護施設等への自主避難に対する支援について伺う。</p>			市長		
2. 生活困難者の支援について	<p>(1) 高齢などのため、自力でゴミを出せない人やゴミの仕分けができない人など、ゴミ捨て困難者の支援策について伺う。</p> <p>(2) 高齢などのため、自力で買い物に行けない人など、買い物困難者の支援策について伺う。</p> <p>(3) 生活困窮者（生活保護世帯等）の自立に向けた支援策について伺う。</p>			市長		
3. 自殺対策について	<p>本市における自殺者の現状と対策について伺う。</p>			市長		

順位	5	質問者	岩山 泰憲	
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者	
1. 小中学校の統廃合について	<p>(1) 文部科学省は、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を策定し、その中で、「地域の実情に応じた最適な学校教育の在り方や学校規模を主体的に検討することが求められる」、「保護者や地域住民と共通理解を図りながら学校統合の適否を考える必要がある」、「地域とともにある学校づくりの視点を踏まえた丁寧な議論が望まれる」としている。広大な本市においては、子供たちが通学に大変困ることとなるにもかかわらず、教育委員会で策定した計画に基づき、小中学校の統廃合が進められている。統廃合により学校区が拡大することは、子供たちの教育にとっては弊害の方が大きいと考えるが、教育長の考えを伺う。</p> <hr/> <p>(2) 子供たちが成長し、将来、地元に残って活躍してくれると期待しているが、そのとき、地元には中学校も小学校もないという状況になる。その時期は10年先と置いていてもすぐに訪れる。</p> <p>なぜ地域の実情を重視せず、無理をして小中学校の統廃合を進めることが活力ある地域づくりにつながり、子供たちのためになるのか、市長の考えを伺う。</p>		市長 教育長	

順位	5	質問者	岩山 泰憲	項目	質問の小項目及び要旨	答弁を 求める者
2. 災害復旧工事 の推進について	(1) 国の災害復旧事業対象とならない40万円以下の被災箇所の支援策として、単独市費の農林施設整備補助金事業や生活道整備補助金事業の拡充をしたところであるが、これらの周知方法や、申請及び実施状況について伺う。	市長				
	(2) 一級河川西城川、成羽川、比和川等の住宅浸水危険箇所の防災対策として、県に堤防の嵩上げや拡幅等の改良、復旧を強く要望すべきと考えるが、今後の対応について伺う。					
3. 地元業者の参加・発注状況について	(1) 支所で必要とされる物品の購入について、可能な限り地元業者を優先すべきと考えるが、発注基準等の考えや現況について伺う。	市長				
	(2) 各支所単位での小規模な維持修繕工事等についても、可能な限り地元業者を利用すべきと考えるが、発注基準等の考えや現況について伺う。					
4. 市内のゴミの収集について	市内のごみ収集業者の参加資格及び業者選定基準の詳細と現況について伺う。	市長				

順位	6	質問者	坂本 義明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 七塚原記念館 の修復保存に ついて	(1) 平成 29 年 3 月議会での七塚原記念館の 保存活用についての一般質問において、市 長から「県としっかり話をしてみたい」と の答弁があったが、県の見解とその後の取 り組みについて伺う。		市 長 教育長
	(2) 記念館の前庭部分は整備されているが、 建物本体は今後どうなるのか伺う。		
	(3) 文化財価値のある建物で改修修繕に向 けての話もあると聞くが、実情はどうか。		
	(4) 建物を有効活用し、県大生や地域住民 に愛される施設として残せる方法を考える べきと思うが、見解を伺う。		
2. 放課後児童ク ラブと放課後 子供教室の現 状と課題につ いて	(1) 放課後児童クラブと放課後子供教室の 違いについて、改めて伺う。		市 長 教育長
	(2) 放課後児童クラブと放課後子供教室の 現状と管理運営上の問題点について伺う。		
	(3) 放課後児童クラブと放課後子供教室の 今後のあり方について伺う。		
	(4) 利用児童が増加している庄原小学校放 課後児童クラブの課題と今後の対応策につ いて伺う。		

順位	7	質問者	桂藤 和夫
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 西日本豪雨災害への対応について	<p>今回の7月6日、西日本を中心に発生した豪雨により住宅、インフラ、農地、農産物等多くの災害が発生している。そうした中で、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 通勤・通学等で地域交通の中心を担うJR芸備線の被災状況と今後の市民への影響、復旧見込みについて伺う。</p> <p>(2) 西城市街地及びその周辺の浸水防止を目的に建設された栗可動堰の損害状況と今後の対応方針について伺う。</p>		市長
2. ジオパーク構想について	<p>本市では、少子高齢化と人口減少に歯止めがかからない中、様々な施策で庄原の良さを見出し、観光に繋がるチャレンジを実行されているが、今後の本市の活性化と観光産業の基礎となる事業として、広島県東北部から岡山県中西部にかけての吉備高原地域を中心にしたジオパーク（地質公園）構想について提言・質問をしたい。</p> <p>ジオパークは、ジオ「地球・大地」とパーク「公園」を意味し、ジオを学びながら、楽しむことができる場所ということで、最近、地域をあげて申請されている事業であり、中国地方付近では、隠岐、山陰海岸、Mine 秋吉台、島根半島・宍道湖中海の4地域、全国では43地域がジオパークに認定されている。</p>		市長 教育長

順位	7	質問者	桂藤 和夫
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
2. ジオパーク構 想について	(1) このジオパーク構想は、本市を含めた広域的な観光産業の柱となり得る事業であり、広島県から岡山県に至る地域で、本市が率先して進めることにより、本市の良さを強くアピールできると考えるが、所見を伺う。		市 長 教育長
	(2) ジオパーク構想では、その土地の風土や自然の営みの中で育まれた神話・伝説・方言なども重要な意味があり、本市で伝えられている「イザナギ・イザナミの神話」も、よりクローズアップできると思うが、所見を伺う。		
	(3) このジオパーク構想は、吉備高原地域が対象であるため、同地域の関係市町と共同で実現に向けた活動が必要であり、この活動を通して、岡山県と吉備高原地域の市町がより身近になり、経済活動等の交流が期待されると思うが、所見を伺う。		
	(4) 全国的に国内・国外客が訪れる地域の魅力ある観光産業が活発に行われている中、中国山地周辺の現状は停滞しており、今後どのようにアピールできるかは大きなテーマである。ジオパーク構想は、この問題を切り拓くステップになると思うが、所見を伺う。		

順位	8	質問者	宇江田豊彦	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
<p>1. 庄原市まちづくり基本条例を基底とした行政運営は実践されているのか</p>	<p>庄原市まちづくり基本条例は、2011年12月議会において制定され、翌年4月1日に施行された。</p> <p>前文においては、「…市民が主役のまちづくりをさらに進めるために、庄原市まちづくり基本条例を制定します。」としている。第1条においては、「参画と協働」、第2条では、「本市のまちづくりの最高規範」であることを明記（銘記）し、以下、「用語の定義」、「基本原則」、「市民の権利」、「市民の責務と役割」と続いている。</p> <p>本条例の第6条で、「市民は、自らがまちづくりの主役であることを認識し、まちづくりに関心を持つとともに、自らできることを考え、積極的にまちづくりに参加する」とある。</p> <p>また、第8条では、「市長の責務」として、「市長は、この条例に基づいて、公正、公平かつ誠実にまちづくりを推進する」、「市長は、市民の意向を尊重し、自らの判断と責任において必要な施策を選択し、総合的かつ計画的にまちづくりを推進する」と明らかにされているが、具体的な施策展開において、本条例が示している取り組みになっているのか伺う。</p>			<p>市長</p>

順位	9	質問者	林 高正
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 境界明確化事業及び地籍調査事業について	<p>これまで私も含め複数の議員が森林吸収源対策関連の質問を繰り返しているが、今年7月19日、会派「きずな」の企画による国土交通省及び林野庁との合同勉強会で、山の境界明確化事業を推進しながら地籍を確定する方向で、国が動いていることが確認できた。</p> <p>国としては、2020年5月より地籍調査のやり方を大きく変更する予定で動いているが、本市としての取組みについて、考えを伺う。</p>		市長
2. 通学路にある危険な空き家について	<p>小学校の通学路に面した危険な空き家が市内各所で見られる。当然、市として状況を把握しているであろうが、その対策をどう講じようとしているのか伺う。</p>		市長 教育長
3. 改正道路交通法により消防ポンプ自動車が増えなくなった消防団員について	<p>2017年3月12日に施行された改正道路交通法により、これまで普通免許では車両総重量5トン未満まで運転できていたが、3.5トン未満に引き下げられた。</p> <p>よって、新免許制度において従来の4トンを超えている消防ポンプ自動車を運転するには準中型免許を取得する必要があるが、本市としての対応について伺う。</p>		市長

順位	10	質問者	谷口 隆明	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 7月豪雨災害 への対応につ いて	<p>(1) 広い市域で各支所の果たす役割が今回ほど大きかったことはない。災害時に、本庁・支所が万全な対応をとれるよう、機敏な応援体制が必要と考えるが、見解を伺う。</p>			市長
	<p>(2) 県の河川事業予算は、2000年には378億円であったが、本年度は72億円で、県の砂防予算は、2000年は165億円、本年度は97億円と、全体として減少傾向であり、国の関連予算も小泉構造改革以来、激減してきている。</p> <p>危険な急傾斜地が日本一多い広島県で、災害関係予算が大幅に減らされていることも災害を大きくした原因ではないか、市長の認識を問う。</p>			
	<p>(3) 施工業者の確保など課題が多いが、公共土木災害、農地・農業用施設災害の復旧事業の完了見通しについて伺う。</p>			
	<p>(4) 災害からの生業の再開に向けて、「グループ補助金制度」があるが、補助残の25%への独自支援はできないか伺う。</p>			
	<p>(5) 林業機械の高度化・大型化で作業効率は大きく改善されたが、大規模な作業道が災害を引き起こしている。一定の規制やルール作りが必要ではないか伺う。</p>			

順位	10	質問者	谷口 隆明
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 7月豪雨災害への対応について	(6) 市の独自施策も含めて多くの生活支援メニューがあるが、意外と知られていない。関係機関とも力合わせて、一人の漏れもないように取り組むべきだが、見解を伺う。		市長
2. 中小企業・小規模企業振興条例について	中小企業・小規模企業の振興を県政の重要課題として施策を総合的に推進していくため、「広島県中小企業・小規模企業振興条例案」が議員提案された。条例案は、平成 29 年 10 月 2 日、広島県議会本会議において全会一致で可決されている。本市でも県条例のような理念条例をつくるべきと考えるが、市長の見解を伺う。		市長
3. 学校再配置の議論について	学校再配置検討委員会、教育委員会、総合教育会議の全てで、「学習指導要領が複式学級を想定した内容になっていない」ことを適正配置の議論の前提にしている。全国にたくさんの複式学級を持つ市町があるが、他では聞かない、ありえない議論である。今年の3月議会でも質問したが、この議論の根拠について改めて伺う。		教育長

順位	11	質問者	赤木 忠徳	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
1. 西城地域の道路路線の方向性について	<p>現在、国道 183 号線改良が平子駅下で行われ、また、道後山駅付近でも高規格道路新設が進んでいる。今後、国道 183 号線と高規格道路の併用及び改良について伺う。</p> <p>(1) 国道 183 号線の最大困難箇所である西城大橋下で、道路陥没、土砂崩れが立て続けに発生した。しかも、国道 183 号線の上部にある主要地方道東城西城線も昨年末に土砂が崩れ、7 月豪雨でも発生し現在でも交通不能となっている。このあたりは、合併前から幅員が狭く土石の滑落が懸念されている箇所で、交通の危険性を感じながら通行している現状であり、迂回路がない為、道路改良が進んでいない。高規格道路建設を待つ改良工事に取り掛かるには、あまりにも危険性を感じる。広島県、国との協議は進んでいるのか伺う。</p> <p>(2) 高規格道路は、現在、道後山駅付近で工事が進んでいる。工事期間及びその後の接続路線計画は進捗しているのか伺う。</p>			市長

順位	11	質問者	赤木 忠徳	
項目	質問の小項目及び要旨			答弁を 求める者
2. 西城市街地環境計画について	<p>(1) 合併後、以前計画されていた西城地区公共下水道は、高地区と同時に中止された。庄原市の財政悪化のためとはいえ、合併1市6町の市街地で下水道整備が無いのは西城町と口和町である。中止後、新たな対策を取らず経過していたが、数年前に、現地を確認後、明神町地区に浄化槽路を設置し、その後、五日市、中野胎蔵寺地区にも浄化槽路を敷設することを聞き及んだが、今後の計画について伺う。</p> <p>(2) 西城市街地の人口が急激に減少している背景に、浄化槽設置が不可能な地域からの転居がある。その為、空き家が目立つようになった。特に本町、中町、十日市地区の西城川寄りに空き家が集中している。この地域は、浄化槽設置の空き地が無く、道路面から川側に向かって傾斜している家が多く、奥に庭があるのが特徴である。</p> <p>このような困難な状況だが、早急に街の中心部に対策を打たないでいると、荒廃地になりかねない。今後の対策について伺う。</p>			市長

順位	12	質問者	吉方 明美
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原市木質バイオマス活用プロジェクトについて	<p>このプロジェクトは、第1期長期総合計画に重点戦略プロジェクトとして創設され、大きく6つの施策から成り立っており、それぞれ目標達成に向けて努力を重ねてこられた。</p> <p>しかし、平成29年度主要施策の成果に関する報告書では、木質ペレット利用促進事業のひとつであるペレットストーブ等購入促進補助金は、申請件数の減少や制度創設の根拠となる「庄原市バイオマス活用プロジェクト」が終了したので、この補助金は、平成29年度末で終了したとしている。</p> <p>木質バイオマス活用プロジェクトは、それぞれ一定の成果を得たため終了したのか、又は失敗したのか、次の点について伺う。</p> <p>(1) SARUプロジェクト会議への参画について、成果はどうだったのか。</p> <p>(2) 木質バイオマスボイラー設置整備事業について、成果はどうだったのか。</p> <p>(3) バイオエタノールの製造実証実験について、成果はどうだったのか。</p> <p>(4) 木質バイオマス利活用プラント事業の支援事業について、成果はどうだったのか。</p>		市長

順位	12	質問者	吉方 明美
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原市木質バイオマス活用プロジェクトについて	(5) 木質ペレット利用促進について、成果はどうだったのか。		市長
	(6) 木質ペレット製造について、成果はどうだったのか。		
	(7) 事業実施の根拠であった「庄原市バイオマス活用プロジェクト」自体が終了したのであれば、ペレット製造事業は、必然的に終了すべきと考えるが、平成30年度もペレット製造を継続するのはなぜなのか。		
2. 保育所における紙おむつの持ち帰りについて	<p>今年6月のこの一般質問に対して、保護者等の意見を聴き、検討すると答弁された。</p> <p>その結果はどうだったのか。また、結果を踏まえて、今後どのように対応されるのか。</p>		市長

順位	13	質問者	福山 権二
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 庄原さとやま ペレット(株) の経営について	庄原さとやまペレット(株)の現在の経営状況では、この株式会社に市が関連工場等施設の使用を許可し続けることは、庄原市森のペレット工場設置及び管理規則第1条に規定する設置目的から外れているのではないかと考えるが、市長の見解を伺う。		市長

順位	14	質問者	五島 誠
項目	質問の小項目及び要旨		答弁を 求める者
1. 仮想通貨を活用した地方創生について	庄原市で独自の仮想通貨を活用した地方創生により、地域の活力を創り出すことや資金調達をすることを目指していけばと考えるが、市長の見解を伺う。		市長